



Survivors of Incestuous Abuse

<http://siab.jp>

* SIAb.(通称:シアブ)について

当団体は、近親姦虐待の被害当事者（以下、当事者と略称）が主体となって、近親姦虐待被害に特化したピアサポートを、2013年4月の発足以来行っている。

主な対象は当事者で、家族や支援者、治療者、援助職および加害者を含む社会全体も対象としている。

1) 背景および問題意識

多くの当事者が、幼少期から長期間に渡って受けた近親者からの虐待を、家族や地域社会などのコミュニティが崩壊してしまうことや、引き離されてしまうことへの不安や恐怖感、無力感などから、誰にも相談できず、『なかったこと』として生き辛さを抱えたまま成長し、生き抜いてきた。

しかし、成人に至っても、近親姦被害の外傷体験の後遺症による心身の障害を抱えたまま、社会的な生活が困難な状態に追い込まれる当事者が数多く存在している。

潜在化している当事者の中には、児童期から青年期にかけて、当事者が家族分離措置として家族から離れたり、自ら家を出て生活を始め、孤独感を抱えたまま成長し、就労や貧困の問題を抱えている者も数多く存在すると思われる。

孤独感や被害による心身の苦痛を回避するため、性的逸脱行為を繰り返したり、飲酒や薬物などの物質依存やギャンブルなどの嗜癖行動を繰り返したりする可能性が高い。

また、そのための資金を得るために、犯罪や性的逸脱行為を繰り返し、事件に巻き込まれ、中毒症や感染症等の危険に曝される可能性も高い。

また、異性と親密な関係を築くことが困難であったり、性行為への不安や嫌悪感、自身やパートナーが自分たちの子供に性虐待をしてしまうという恐怖感などから、妊娠や出産、子育てに不安を抱き断念する場合もある。

当事者たちが、困難な生活から抜け出そうと、相談や支援、治療に繋がろうとしても、この問題に取り組む専門的な支援体制や治療体制が確立されておらず、情報量も少ない。

さらに、社会の理解度の低さや、地域の環境や地域性、子育てや家事、仕事などに追われる中で、それらに繋がることが困難な場合も多く、当事者は問題を抱えたまま、ますます孤立してしまう場合が多いというのが現状である。

2) 活動目標

近親姦虐待被害からの回復に取り組む当事者同士が繋がり、お互いの回復と成長を語り、学び合いながら、健康的な社会生活を取り戻していくこと。

また、ある程度回復した当事者たちが、近親姦虐待問題について社会に対して声を発信していくことで、この問題に関する知識や理解が広がり、社会全体で盛んな議論や活動が展開され、治療方法や予防方法が日々検討されていくような社会になることを目標としている。

3) 活動内容

①月2回のシェアミーティング（6月から月3回を予定）

当事者がシェアミーティングに参加し仲間と語り合うことでレジリエンスを得る。

②ホームページによる情報発信活動

ホームページから当事者同士が誠実に語り合う動画や体験談、回復に取り組むための情報等を配信。

③年数回の当事者交流会（予定）